

「低温やけど」について

低温やけどとは

湯たんぼや使い捨てカイロに長時間接触していたり、暖房便座にずっと座り続けていると、低温やけどになることがあります。このやけどは皮膚の深いところまでダメージを受けているにもかかわらず、通常のやけどと違い、皮膚の表面は軽症に見え、時には気がつかないこともあります。

低温やけどの症状

軽い症状～うっすらとした赤味とひりひりした痛みがあります。

中度の症状～水ぶくれができ、はっきりとした赤味と強い痛みがあります。

ひどい場合～皮膚が壊死します。

※低温やけどは皮膚の奥深くで進行するため、通常のやけどよりも治りにくいです。軽症か重症かに関わらず、医療機関を受診しましょう。

低温やけどになりやすい人の特徴

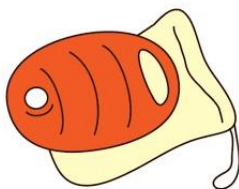
皮膚の薄い高齢者、麻痺がある方、糖尿病などで手足の循環が悪い方など

低温やけどの主な原因となるもの

湯たんぼ・電気あんか、使い捨てカイロ、電気毛布

低温やけどの予防方法

- ① 湯たんぼ・電気あんか⇒就寝前に布団に入れて布団を温めておき、就寝時は布団から出しておきます。
- ② 使い捨てカイロ⇒貼るタイプの使い捨てカイロは必ず衣類の上に貼り、長時間同じ箇所に当てないようにします。
- ③ 電気毛布⇒電源を入れて温め、就寝時には電源を切るようにします。



禁忌

- ① 水ぶくれを潰す⇒潰してしまうとそこから雑菌が入り、悪化してしまう可能性があります。
- ② アロエや味噌などを塗る⇒感染症の問題、かぶれる場合がある、病院受診した場合に傷が良く見えず洗う必要があるためです。